

2021 年度 年次報告書 (アニュアルレポート)



公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト

公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト
〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目 1-77
あそび創造広場内 TSURUMI こどもホスピス
TEL 06-6991-9135 FAX 06-6991-9136
Email: info@childrenshospice.jp
<http://www.childrenshospice.jp>

公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト：TSURUMI こどもホスピス

<はじめに...2021年度の重点として>

TSURUMI こどもホスピス(以下、こどもホスピス)は、生命を脅かす病気（LTC: Life-threatening Conditions）とともに生きる子どもとその家族が、そして私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくろうと願い、地域における小児緩和ケアを実践する場の一つです。2021年度も、地域活動の制約を受けつつも、少しずつ開いていく活動を展開し、ホスピスケアの活動を進めることができました。

①「未来計画（2021～2025年度中期ビジョン）」を起動させる初年度として

自分たちの取り組みを総括し次5年の中期ビジョンを固めた「未来計画」を推進する初年度となった2021年は、多様なステークホルダーとの連携した各種トライアルを実施してきました。ハウスを起点とした活動だけでなく、オンラインによる活動メニューのバリエーションをさらに広げたことでリーチできる範囲を拡げただけでなく、ホスピスの利用を広げるためのこれまでのフレームの見直し作業にも着手し、利用の拡大化を準備する1年になりました。

TSURUMI こどもホスピス 2021 at a glance

2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>春、未来計画トークセッション開催 支援者の皆さん、ありがとう！</p> 		<p>原っぱに 探検に行こ！</p> 		<p>うわあ、 絵本でびっくり</p> 	
<p>スタッフ集結、雑誌ソトコにて！</p> 		<p>夏のおきやくさま</p> 			
<p>お庭で ムービーナイト とかできちゃうし</p> 		<p>ただただ ゴロゴロ～ たのし～</p> 		<p>メンバー限定の泡まつりで夏を満喫！</p> 	

2021 年度年次報告書（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

②「質への挑戦」「ケアの概念の拡充」アプローチを強化

パーソナル利用を基軸に、コ・クリエーションによる質の深まりや量の拡大を進めるため、子どもの尊厳に迫っていくメニューの多様化、ピアの力によるケアを実施しました。とくに、ティーン層にアピールできる手立てやプログラムをいくつか試行し、次年度以降の事業推進に向けた準備を進めることができました。

③広報力アップによるファンドレイジングの強化

「みんな知っているこどもホスピス」を目指す第一歩として、広報プロの指導のもと、広報力を強化。自分たちの取り組みや思いを効果的に地域に発信できるよう、発信力の基盤整備を進めました。同時に、これまでの支援者とのつながりを大事にしたコミュニケーションを深めました。



世界水準のこどもホスピスとして

- 友として関わる（Friendship）
- 病院ではなく家である（Home from home）
- 地域に根差した自発的な活動（Local Initiative）
- 寄付による慈善活動である（Free standing）

10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月
<p>広場で、ホスピスマルシェ！はじまる</p>	<p>アドベンチャーワールドから動物たちが！ パートナーシップ協定を結びました</p>	<p>クラウンさんと幼児フレンズ！あったかクリスマス♡</p>	<p>番組終了後から 寄付問い合わせの電話が 鳴り続けました！</p>	<p>今年も雪ん子たちと楽しい時間に。 温かい春は、もう目の前！</p>	<p>全国からホスピス設立有志、集まる！ 11月には、横浜がホスピスオープン。</p>
	<p>ABCキャストで4回放映 たくさんの反響が。</p>	<p>どっぷり読書 ひとり時間、大事よね</p>	<p>#知ろう、一緒に。 AYA WEEK 2022 AYAwEEK2022を TSURUMIこどもホスピス 応援しています！</p>		

1・こどもホスピスケアの取り組みとして

(公益目的事業 1-(1)：対象児と家族のためのホスピスケア事業)

はじめに...TSURUMI こどもホスピスには、以下のような特徴があります。

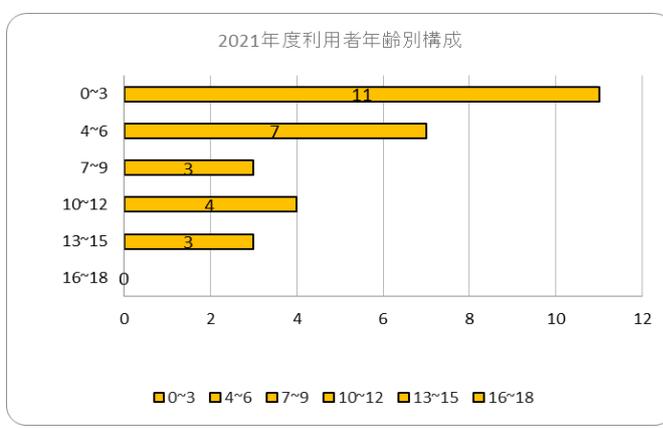
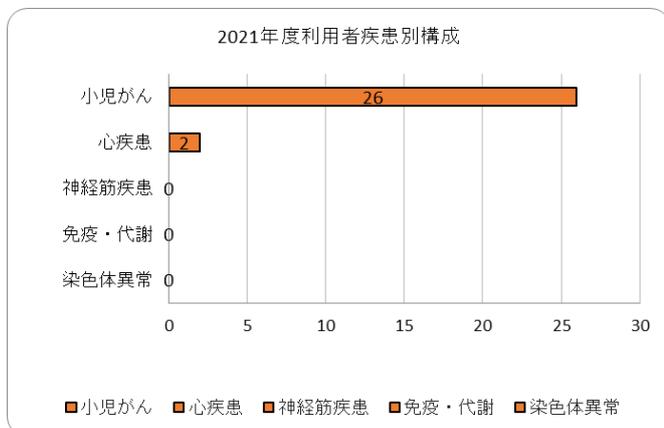
- ・LTC(Life Threatening condition：生命を脅かされた状態)の子どもの「今を生きる」「成長と発達」を大事に、社会で享受できないことが多い子どもと家族（保護者、きょうだい）を優先し、医療と連携しながら連続性のあ
る、地域で支える小児緩和ケアを進めています。
- ・子どもと一緒に遊んだり、ご家族に寄り添う看護師、保育士、理学療法士のスタッフが常駐して、子どもたちの時間づくりをしています。イベント時には、ボランティアや地域の支援者と協働しながら、子どもの多様な体験の機会を創り出そうとしています。利用内容は子どもや家族と相談しながら決めていきます。
- ・子どもが亡くなった後もご遺族が、「子どもとの記憶と思い出がある場所としてあり続ける」ことをビリーブメントケアの一つとしています。
- ・こどもホスピスは、鶴見緑地公園内に立地し（時間や場所を限定しながら）広場や施設の一部を「あそび創造広場」として開放。様々なプログラムを地域と協働しながら実施しています。状況によっては、ホスピスを利用する子どもも参加し、地域住民と分かち合える地域交流の場になっています。

1) 募集（広報）&エントリー

①2021 年度の利用者に関して（疾患別、年齢分布など）

	2020 年度	2021 年度	2021 年度補足事項
継続パーソナル利用者数	40 世帯（遺族含）	6 世帯 (他 31 遺族)	※ 1 世帯昨年度修正
当年度新規登録数	10 世帯	20 世帯	
再登録数		2 世帯	
当年度パーソナル利用者数	50 世帯（31 遺族）	28 世帯	
当年度パーソナル利用終了者数	12 世帯	4 世帯	
更新パーソナル利用者数	38 世帯※	24 世帯	

※コミュニティ利用は 6 世帯の登録がありましたが、上記パーソナル利用登録と別立てとしています。



②コロナ禍における医療機関との連携

コロナ禍となり 2 年目でしたが、病院への直接訪問が困難な状況は続きましたが、医療者とはオンライン等の手段を使い、より発展した形で連携に向けた関係を維持することができました。また、こどもホスピスと連携を希望する病院も新たに 2 施設加わり、病院単位での個別なコミュニケーションの機会は増し、より早く医療現場においてホスピスを必要とする子どものもとに、その情報が届くようになりました。

2) ケアプランとケア活動の概要

①利用方法について

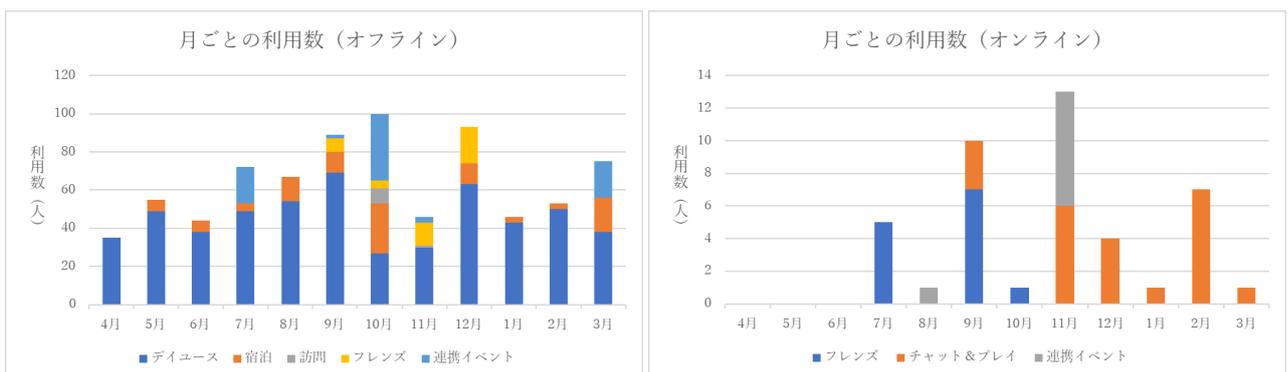
子どもの疾患、その状況によって子どもと家族のニーズも異なるため、従来の病状区分は子どもの状況を知るための基準として残し、ニーズごとの利用方法を見直しました。これまでメンバー利用と限定していたものを、『パーソナル利用』『コミュニティ利用』の 2 種類に分け、パーソナル利用は、病状区分Ⅰ・Ⅱの子どもを主な対象とし、その子自身の願いを叶えることを重視。コミュニティ利用は、今年度は重度の障害のある子どもと家族を主な対象とし、家族同士や地域との繋がりが持てることを重視した『Meet up プログラム』を実施しました。

【病状区分】

I	EOL 期※	予後が極めて厳しい	※EOL(End of life)
II	急性期／不安定期	予後が明確でないが、非常に不安定な病状・治療中である。または、早期に亡くなる可能性が高い	
III	慢性期／安定期	予後予測が困難な疾患・状態だが、現在は身体症状が安定している	

②パーソナルケア活動とケアプラン

チルドレンファーストは、ホスピスケアの中で最も大事にしている視点です。ホスピスケアの中で、子どもの声を聴き、子どもの発意を大事にしたケアプランを考えていきます。子どもの状況は、疾患、年齢、家庭環境などから様々です。一人一人の子どもの「やりたい」「実現したい」願いを叶えるために、こどもホスピスでは様々なケア活動の中で、子どもの願いを一つでも多く実現できるよう様々な取り組みを行っています。



◆中高生世代の利用促進に向けた様々なトライアル

こどもホスピス利用者は幼児が圧倒的に多く、過去も中高生利用者は 1 割に満たない状況でした。それは利用を希望するのが親であるという点が大きな要因でもあったので、親だけではなく、直接中高生世代に届けられるようモニター的な利用を試み、その世代のニーズや利用しやすさを検証し実施しました。(広場活動として報告)

◆パーソナル利用とそのニーズ

コロナ禍 2 年目、LTC の子どもたちの療養環境に大きな変化はありませんでした。面会や外出・外泊等の制限、

療養中の楽しみが乏しい環境は、市中感染が広まることでより強くなり、社会がコロナに慣れていく意識と、LTCの子ども家族が抱える不安とのギャップが広がっているようにも感じました。長引くコロナ禍で、こどもホスピスの新規利用者は前年から倍増し、デイユースの利用頻度はコロナ前を上回るほどに。日常生活の感染リスクをできる限り避けたい、かつ、子どもの今の時間を大切にしたいという子ども家族のニーズがより高くなったことが、ホスピスの利用に繋がりました。こどもホスピスの利用環境として、利用者間の感染リスクを避ける対策を講じながら、個別宿泊など積極的に利用機会を増やしていきました。オンラインを活用した療養中の子どもとの遊びやコミュニケーションは、利用方法の一つとして、子どもが楽しみとなる手段の一つとしてより自然になってきています。

<パーソナルケアプログラム利用者人数比較>

	2019年度（コロナ前）	2020年度	2021年度
デイユース：パーソナル利用者	476	441	545
デイユース：遺族	92	12	16
ステイ（宿泊）	83	57	101
ビジット（訪問・お見舞い）	125	45	9
オンライン	—	70	35
総利用数	776	625	706

③フレンズ（子ども同士）とピア（仲間）の力

幼児にとって、成長発達のお機となる子ども同士の時間は非常に重要です。コロナ禍も、こどもホスピスが可能な限りフレンズを開催してきたのは、たとえ2～3人の子ども同士であっても、他者の存在が子どもにもたらす影響は大きいと確信しているからです。『子どもの時間』をより豊かにできる機会としてのフレンズプログラムは、長引くコロナ禍、LTCの子どものお親同士が会おう、話せる機会としても重要な意味を持ちました。

アクティビティ・プログラム名	開催日	子ども	大人
幼児フレンズ	9/16~12/17(6回)	17名	16名
パーソナル利用者イベント名	開催日	子ども	大人
夏の泡まつり	7/31	12名	7名
雪企画	3/19	8名	11名

3) ビリーブメントケア（ご遺族とのつながり）に関する取り組み

□こどもホスピスのビリーブメントケア（遺族ケア）として

ご遺族の深い悲しみに寄り添い続ける、思い出の場所としてあり続けることが、こどもホスピスの取り組みの本質的な意味の一つです。ホスピスは「あり続けること」「思い続けること」「ともに作ること」—この3つの視点を大事にしています。2021年度に子どもを亡くされたご遺族は3組おられました。その子にとっての「今しかない時間」をご家族やご家族を支えたい仲間と共に、寄り添い支えることができました。これからも、病気の子どものお尊厳を守ろうとする社会づくりに、ご遺族を含めた地域とともに力を合わせ歩いていけたら...と願っています。

2・広場活動としての取り組み（あそび創造広場活動の推進）

（公益目的事業 1-(2)-1：小児緩和ケアの普及啓発事業）

「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、地域に開いた様々な活動を実施しました。

1) 各種地域向けの取り組み

①地域イベントとしての取り組み

あそび創造広場の原っぱエリアには、コロナ以降、平日休日問わず子どもたち、親子連れの姿が増え、緑の自然だけの何も無い環境だからこそ、子どもと安心して過ごすことができ、子ども自身が遊びを見つけ楽しんでいる風景が見られます。地域市民が参加できるイベントも、昨年まではオンラインが中心でしたが、2021年度は広場イベントの作り方を工夫し、事前申し込み、人数制限といった安全対策を取りながらも、広場での交流イベントを安全に開催することができました。



また、地域で難病を抱える中高生を対象に、「いつでも、どこでも、だれとでも」をテーマにオンラインイベントを開催。入院治療中でも、地域の仲間とつながる楽しさを作り出すことができました。

オンラインイベント名	開催日	子ども	大人
難病の中高生対象交流イベント（ポテチナイト）	8/27	3名	0名
難病の中高生対象交流イベント（ポドゲナイト）	9/10,9/23,10,13	8名	0名
難病の中高生対象交流イベント（プロフェッショナルナイト）	10/30,11,14	5名	0名
難病の中高生対象 オンライン見学会	2/25	4名	2名
中高生対象 TSURUMI こどもホスピスのええところ紹介	3/9	1名	8名
難病の中高生対象交流イベント（Mocktail Night）	3/13	6名	2名
サポーターズカフェ	4/29,4/30,5/1,6/20,9/23	2名	78名
オフラインイベント名			
難病の中高生対象交流イベント(Pocky & Pretz Night)	11/20	2名	1名
難病の中高生対象交流イベント(Mocktail Night)※	3/13	3名	2名
CHOBO カフェ	7/11,9/24,10/8,11/14,	11名	19名
おさんぽカフェ	12/4, 1/4	0名	10名
&（アンド）カフェ	3/11	0名	2名
アドベンチャーワールド、ワクワクスマイルデイ	10/17	51名	48名
TSURUMI こどもホスピスマルシェ	11/7	推定 200名	
見学視察		98名	

②「広場」連携プログラム

2021 年度も、引き続きコロナの感染状況を見ながら各種取り組みを実施していただきました。入院治療中で幼稚園に行けず、同世代の子と過ごすことが難しい子どもたちが、プログラムに参加する事ができました。ホスピスを利用して子、治療が終了して安定している子、今まさに治療中の子と一緒に過ごせる機会をコロナ禍でも作り出すことができました。人との接点を作りづらい状況で、他のプログラムでも、参加者が「非常に居心地の良い空間ですね」と感じていただいたり、「人と繋がる」場所・時間を提供することができました。

<2021 年度「広場」連携プログラム 利用実績一覧>

主催団体名	開催日	参加者数
ビリーブメントケアチームビリーブ	4/4,8/1,10/3, 11/7, 12/5 5/2,6/6,7/4,9/5,1/9,2/6,3/6	30 人 中止
(一社)日本ベビーウェアリング協会	7/2,8/1,11/7,2/6,3/18 6/6,9/3,12/17,1/21,2/18,3/4	大人 25 人子ども 11 人 中止
BONBON CANDY-にじいろじかん-	7/4, 12/5, 3/6 10/15	大人 18 人子ども 16 人 中止

2) 原っぱ活動としての取り組み

初年度に植えた苗木が数メートルまで成長し、徐々に木陰が増えてきました。草や木々の成長とともに様々な種類の虫が見られます。鶴見緑地に詳しい虫とり少年は「カマキリはホスピス」と話してくれます。

「危ないものがあったら教えてね」と地域の子もたちに伝えると、「蜂の巣があったから早く来て」「枝集めといたよ」と、一緒に安全な広場づくりに協力してくれています。利用者は滞在中やその前後の遊び足りないときに過ごしています。レジャーシートや虫取り網を持参して遊んでいる様子は、地域のご家族と見間違ふほどで、少しずつ地域との緩やかな融和が進んでいるのを感じます。

3・広報・ファンドレイジングの取り組み

(公益目的事業 1-(2)-2&3：小児緩和ケアの普及啓発事業&収益事業 1)

フリースタANDINGな立ち位置から、ともに子どもの尊厳を守ろうとする地域社会づくりを、丁寧に、かつ、広く届けていくことは、TSURUMI こどもホスピスのファンドレイジング活動の軸になっています。2021 年度もコロナ禍の影響が続きイベント開催が難しい中、各種 PR 活動を進める中で多くのご支援を受けることができました。

1) メディアや学会等における広報・発表、自主的な発信の活動

①メディア系の取り組みとして

2021 年度は、雑誌「ソトコト」での掲載や各種ウェブマガジンでこどもホスピスの取り組みが取り上げられ、ABC 放送「キャスト」での4回連続の特集放映など、数多くのメディアを通じて発信する機会をいただきました(計 13 回)。また、全国各地におけるこどもホスピスの設立の動きの反響もあり、こどもホスピスの認知が高まってきているのを感じる1年でした。そういう相乗効果からか、一時寄付やマンスリーサポーターも増加しました。



②自主発信の活動

2021 年からの中期計画で謳われている「みんな知ってるこどもホスピス」に向けて、自主媒体の充実を図る初年度となりました。こどもホスピスの存在や活動が分かりやすく広く伝わるよう、ウェブサイト、パンフレット類の作り直しを行っています。また、SNS を活発化させました。特にインスタグラムに力を入れて、日常風景を発信することで「こどもホスピス」にもたれる既存イメージ（暗さや怖さ）を緩和することを目指しています。

地域での取り組みとして、鶴見図書館のご協力で図書館入口に11～1月にかけて2カ月間ほどパネル展示させていただき、地域住民の方にこどもホスピスの存在に触れてもらう機会を作ることができました。

③医療関係者やホスピス関係者への広報および発表

地域における小児緩和ケアの実践をお伝えするため、医療関係の学術大会やこどもホスピスネットワークの講演・学会等で TSURUMI こどもホスピスの取り組みをお伝えしました。

- ・「第 20 回日本小児がん看護学会学術大会」（11/27、古本）
- ・「第 22 回 JHHH ネットワーク会議」（1/22、水谷）
- ・「日本グリーン&ピープメント学会第 4 回学術大会」（2 月、水谷）
- ・「第 4 回全国こどもホスピスサミット（横浜）」（2/11、水谷）



2) ファンドレイジングの活動

2021 年度のファンドレイジング活動は、これまでつながりができた支援者の皆さんの継続的なご支援やご協力だけでなく、メディアによる発信によって新規の方々からのご支援の輪が広がり、これまでとはまた違うファンドレイジング活動に取り組むことができました。様々なご支援いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

①継続的な寄付者の拡大【継続寄付】

クレジット決済システムの変更などもあり、既存のマンスリーサポーターの皆様には移行手続きをお願いすることがありましたが、移行していただいた既存マンスリーサポーターに加え、上記メディアの反響もあり、マンスリーサポーター数が増加しました。地域の企業や事業者の方に支えてもらうための企業・事業主スポンサーとして多くの法人・事業主様より温かいご支援をいただきました。

- マンスリーサポーター：計 367 名・団体（98 名・団体純増）
- 企業・事業主スポンサー（一口 10 万の法人支援）：計 14 団体（合計 22 口）

②一時寄付の拡大

□個人や法人・団体からの一時的なご寄付【一時寄付（個人・法人）】

メディア広報や関係者の繋がり、遺贈・相続財産からのご寄付もあり、TSURUMI こどもホスピスの取り組みに賛同いただき一時寄付という形で 1 億 3,700 万円を超えるご支援をいただきました。そのうち匿名として複数名の方から計 500 万を超えるご支援をいただきました。

□ファンドレイジングイベントによるご寄付:第 10 回大阪マラソンによるご寄付



第 10 回大阪マラソンの寄付先団体として採択され、マラソンチャリティの活動を進めました。コロナ禍の中でも、TSURUMI こどもホスピスを支援してくださった 46 人のチャリティランナーにより、多額のご支援を得ることができましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う医療体制のひっ迫状況を踏まえ、チャリティランナーの出場は中止になってしまいました。

□各種寄付プログラムによる収入の拡充【プログラム寄付】

- ・社会貢献型自動販売機によるご寄付：14台の設置のご協力をいただいています。
- ・Yahoo!ネット募金やSoftbank つながる募金のネット募金を通じたご支援をいただきました。

③地域社会への発信や地域との連携の推進

□オリジナルのチャリティイベントの開発とその開催

2021年度は、大規模なファンドレイジングイベントは開催せず、オンラインによる「サポーターズカフェ」や小規模の集いによる「CHOBO カフェ」「おさんぽカフェ」を開催。また、3月からは次年度に向けて定期的にこどもホスピスの運営に関心のある支援者とつながりをつくるための「&（アンド）カフェ」のトライアルを開催しました。

□パートナーシップ協定の締結

これまで、こどもホスピスの子どもたちに素敵な企画を届けてくださったアドベンチャーワールド（株式会社アワーズ）様と、今後も“どんなに重い病気であっても子どもの尊厳が守られる地域社会の発展”をともに目指そうと、パートナーシップ協定を締結。今後もどんな事情を抱えた子どもであっても、子どもらしい時間を一緒に届けるパートナーとして、各種取り組みや交流を進めてまいります。

3) 新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と財源拡大

下記助成金をいただき、新しい活動の環境整備や様々な取り組みを推進することができました。

- ・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）

4) 事業収入による財源の獲得（収益事業1：キャット端末設置に関する事業）

各店舗等にキャット端末を設置する事業収益として、411万円を得ることができました。

5) 寄贈や企画協力によるご支援

企業・団体や個人の方より、様々な企画の協力や現物のご寄付を頂戴しました。また、私たちホスピスの子どもたちが遊んだり使ったりする材料や遊具など、希望の品をウィッシュリストに掲載し、そのご寄贈（47件）をいただきました。

6) 寄付型運営のための組織基盤の強化

2021年度は公益目的事業を担う運営の基盤を整備するため、顧客管理データベースの整備や寄付の受け取り方の経理事務の整理など、公益法人運営の基盤の安定化を進めるための各種実務の整備に取り組みました。

4・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、その出会いの可能性を広げることやホスピスの運営面をより円滑に進めていくために、新しいボランティアの形を模索しつつ、ホスピスを支える人的な拡充や関わりの模索をスタートさせています。

1) こどもホスピスにおけるスタッフ人材育成とボランティアマネジメント

（公益目的事業1-(3)：ホスピススタッフ&ボランティア人材の養成やネットワーキング事業）

①ボランティアマネジメントの体系と活動の概要

オープンから5年間、登録型ボランティアのキャストボランティアには様々な活動にご協力していただきました。新型コロナ後、ボランティアの受け入れを停止せざる負えない時期もあるなど、ホスピスの安全と衛生を確保するために業者へ委託する内容が増えてきました。また、企業団体や専門性の高い人たちが協力してくれる機会も増えたことで、定期的なボランティア活動の機会は減少しています。2021年度は、これまでのボランティアとの関係を継続しつつ、その都度ホスピスに必要となる新しい人が関わりやすい仕組みづくりとしてボランティアや協力者との連絡手段と個人情報管理の再整理に着手しています。

②こどもホスピスの組織運営に関する研修の開催



これまで実地研修等につながりがあった横浜の有志がこどもホスピスをオープン。そういった動きを始め、全国各所でも「こどもホスピスを作りたい!」という声やご相談が増えてきたことを受け、全国各地でこどもホスピスのケア人材の養成の一環として、「ホスピススタートアップセッション」を開催。オンラインとの組み合わせによる1日半の研修を実施し、6団体10名の関係者にご参加いただきました。限られた時間でしたが「ホスピスをつくる、運営する」を本気の有志とともに考える、貴重な交流の機会になりました。

2) 組織運営の強化と財政面について

①法人運営（ガバナンス）の整備

□総会の開催

一年一度の定時総会は、会員全員による決議の省略により、事業報告・決算、事業計画案を承認しました。

□理事会の開催

2021年度は、中期ビジョン（「未来計画」）を推進するため、日々の運営を協議しつつ様々な事業が推進できるようホスピスの展開を考えるための理事会の運営を進めました。

開催日	主な審議事項	出席者数
5/13	2020年度事業&決算報告、21年度計画・補正予算の承認、パーソナル利用規約（旧メンバー）改訂、利用者承認委員会設置要請の一部改訂、年次総会に関して	7名
8/25	第2次補正予算案、ケアエントリー&承認システムについて、スタッフ体制の拡充計画と採用募集について、正会員の承認	6名
10/27	上半期報告、下半期計画と第3補正予算案、企業とのパートナーシップ協定について	7名
1/27	2021年度決算見通しと第4次補正予算案、高額指定寄付のご相談について、倫理・行動準則の策定、就業規則の改定案について	6名
3/24	2022年度事業計画・予算案、委員アドバイザーの推選、次年度の全体スケジュール案	7名

(2021年度理事・監事) 代表理事 高場秀樹 副理事長 原 純一 常務理事 多田羅竜平
理事 安道照子 坂下裕子 水谷 綾 山縣敦彦 監事 奥谷敏之

□利用者承認委員会の開催（公益目的事業1-(1)）

こどもホスピスの利用を希望するご家族からのエントリー後、利用者承認委員会での承認を得た方にご利用いただきパーソナル利用ができる仕組みとなっています。2021年度は、利用者承認委員会を2回開催しました。

回	開催日	主な審議事項	出席者数
第1回	9/1	ケア活動の重点ポイントと進捗報告、利用者承認手続き	5名
第2回	2/18	2022年度の新ケアフレーム、ケア活動について説明、利用者承認手続き	5名

(2021年度 利用者承認委員一覧 ※2021年度末のご所属・役職)

圀府寺 美 すずき小児科クリニック／ 二宮 英一 にのみやこどもクリニック院長

丸 光恵 兵庫県立大学看護学部小児看護学教授／ 矢野 朋子 大手前大学 国際看護学部 在宅看護学 助教

和田 浩 大阪発達総合療育センター 小児科部長・訪問診療科部長

□こどもホスピスの取り組みへの助言、応援協力

こどもホスピスアドバイザー（ケア活動の助言等） 副島賢和（昭和大学教授）、清田悠代（NPO 法人しぶたね）

②スタッフ体制の強化

2021年度は、以下のような体制で、常勤・非常勤のスタッフを配置しホスピスの運営を推進しました。

□こどもホスピススタッフ

- ・ゼネラルマネージャー（全体統括）水谷 綾 ・アシスタントケアマネージャー 市川雅子（看護師）
- ・ホスピススタッフ 饗庭真祐美（保育士）、青儀祐斗（理学療法士）、川戸大智（保育士）、西出由実（看護師）、古本愛貴子（看護師）・検証スタッフ 辻ゆきえ
- ・FRバックオフィススタッフ 岩井弥生、畑 亜紀 ・ハウスキープスタッフ 小林喜美子、森 美弥

③財政面の動向と次にむけて

2021年度は、未来計画（中期ビジョン）を推進するための初年度として各種これまでのシステムや運営の方法を見直し 2022年度の準備に向けた1年のため基盤整備を進めました。そのため、新しいファンドレイジング活動を大きく展開することを控えつつも、これまでのつながりやメディアの表出によって、多くのご寄付をいただくことができました。また、高額の相続寄付をいただいたものを指定財産として受け取り、今後のホスピスの事業開発に向けた準備を進める予定です。

<2021年度収支ベース実績（収支計算書）>

収入	(万円)	支出	(万円)
事業活動（経常）収入	17,485	事業活動（経常）支出	6,489
・会費収入	21	・人件費	3,915
○継続寄付収入（個人、企業）	1,169	・事業・管理費	2,185
○その他寄付収入（個人匿名等）	1,325	・賃借料、租税公課	389
○プログラム寄付収入	72		
◎指定・寄付収入①（個人）※	12,923		
◎指定・寄付収入②（企業）	828		
◎指定・イベント寄付収入	395		
・助成金収入	310		
・事業収入	415		
・その他収入	27		
投資活動収入	3,585	投資活動支出	14,250
・特定資産取崩収入	3,585	・特定資産取得支出※	14,146
		・固定資産取得支出	104
		当期収支差額	331

※相続寄付等による特定資産として寄付を受け取り、次年度以降の取り組みにて活用させていただくもの（基金等）を含む